

平成28年12月7日
 独立行政法人日本学術振興会
 ノーベル・メディア AB

ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017
登壇予定者及び協賛企業等についてのお知らせ

The Future of Intelligence

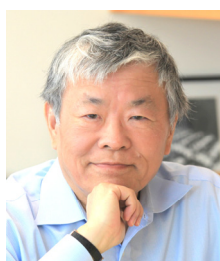
知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～

独立行政法人日本学術振興会（理事長 安西祐一郎）及びノーベル・メディア AB（ノーベル財団広報部門）の主催により、平成29年2月26日（日）に実施する「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017」の登壇予定者及びプログラムについてお知らせします。また、8社の企業からご協賛を頂くことが決定しました。なお、今後順次情報を追加する予定です。
 特設ウェブサイト <http://www.nobelprizedialogue.org/tokyo2017>

1. 主な登壇予定者

[ノーベル賞受賞者]（受賞年順）

- 利根川 進 理化学研究所脳科学総合研究センター センター長
 （日本、1987年ノーベル生理学・医学賞受賞）
- ジョージ・F・スムート カリフォルニア大学バークレー校 教授
 （米国、2006年ノーベル物理学賞受賞）
- エリック・S・マスキン ハーバード大学 教授
 （米国、2007年ノーベル経済学賞受賞） Photo's copyright: © Nobel Media AB 2007
 Photographer: Annalisa B. Andersson
- エドバルド・I・モーセル ノルウェー科学技術大学 教授
 （ノルウェー、2014年ノーベル生理学・医学賞受賞）
- ジャン＝ピエール・ソバージュ ストラスブール大学 名誉教授
 （フランス、2016年ノーベル化学賞受賞）



利根川 進
 (1987,生理学・医学賞)



ジョージ・F・スムート
 (2006,物理学賞)



エリック・S・マスキン
 (2007,経済学賞)



エドバルド・I・モーセル
 (2014,生理学・医学賞)



ジャン＝ピエール・ソバージュ
 (2016,化学賞)

報道発表資料/ Press Release

(以下、名字のアルファベット順)

安西 祐一郎 (独立行政法人日本学術振興会 理事長、人工知能技術戦略会議 議長)

浅川 智恵子 (日本 IBM 東京基礎研究所 IBM フェロー)

トニー・ベルパエム (プリマス大学 教授)

マーガレット・ボーデン (サセックス大学 認知科学研究教授)

ウィリアム・J・ダリー (エヌビディアコーポレーション チーフサイエンティスト)

ニコル・デュワンドル (欧州委員会共同研究センター エンジニア/フィロソファー)

シャラーム・エバドラヒ (IBM ワトソンヘルス バイス・プレジデント)

長谷川 真理子 (総合研究大学院大学 理事・教授)

金出 武雄 (カーネギーメロン大学 ワイタカー冠全学教授)

北野 宏明 (株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長)

國吉 康夫 (東京大学 教授)

美馬 のゆり (日本科学未来館 元副館長、公立はこだて未来大学 教授)

トム・ミッチェル (カーネギーメロン大学 教授)

フランク・パスカル (メリーランド大学 法学教授)

スチュアート・ラッセル (カリフォルニア大学バークレー校 コンピュータ科学教授)

榊原 定征 (一般社団法人日本経済団体連合会 会長)

下條 信輔 (カリフォルニア工科大学 ボルティモア冠教授)

アダム・スミス (ノーベル・メディア A B チーフ・サイエンティフィック・オフィサー)

田村 泰孝 (株式会社富士通研究所 フェロー)

辻井 潤一 (国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター 研究センター長)

内山田 竹志 (トヨタ自動車株式会社 取締役会長)

ウォルフガング・ヴァルスター (ドイツ人工知能研究所 CEO/サイエンティフィック・ディレクター)

ジャネット・M・ウィング (マイクロソフトリサーチ コーポレート・バイス・プレジデント)

横田 南嶺 (臨濟宗大本山円覚寺派 管長) 他

※登壇予定者の略歴等及び今後決定される方の情報については、順次特設サイト上に追加する予定です。

報道発表資料/ Press Release**2. 協賛企業（アルファベット順）**

8社の企業から御協賛をいただくことが決定しました。

ノーベルインターナショナルパートナー：3M、ERICSSON、SCANIA、VOLVO



特別スポンサー：富士通株式会社、株式会社三井住友銀行



スポンサー：株式会社リクルートホールディングス、SCSK 株式会社



報道発表資料/ Press Release
3. プログラム（予定）

ノーベル賞受賞者を含む学術界や産業界の有識者が、人工知能を軸に、人間の「知」に迫ります。

1. 未来の「知」に向けて			
9:00 - 9:15	開会挨拶		
2. 「知」の地平を超えて:未来の「知」とは？			
9:15-11:35	「人間の『知』とは？」 人間が成し遂げた科学・技術の偉業をはじめ、進化や脳の仕組み、経済・社会・文明等、様々な視点から人の「知」に迫る。		
	休憩		
3. 未来の「知」への挑戦			
11:35-14:30	人工知能の未来と挑戦 人工知能研究の第一人者が講演。 最先端の人工知能・ICT 技術が私たちの社会に及ぼす影響、人工知能とは異なる人間の「心」に迫る。		
	昼休憩		
4. 未来の「知」を創る：人工知能・ICT 技術の社会への適応			
14:30-16:45	分科会 1	分科会 2	分科会 3
	企業の変革	モビリティ/アクセシビリティ	人間と人工知能
	休憩		
	産業構造の変革	健康/福祉	ELSI（倫理的・法的・社会的）課題
	休憩		
5. 未来に向けて			
16:45-17:30	日米独の人工知能・ICT 政策対話		
	ノーベル賞受賞者等による総括コメント		
	閉会挨拶		

※プログラムは変更になる可能性があります。

4. ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 運営委員会

職名	氏名	所属等
委員長	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会 理事長
		人工知能戦略会議 議長
副委員長	岩野 和生	東京工業大学イノベーションマネジメント研究科 客員教授
委員	川人 光男	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長
委員	喜連川 優	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長
		東京大学生産技術研究所 教授
委員	國吉 康夫	東京大学 教授
委員	辻井 潤一	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター 研究センター長
委員	藤山 知彦	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
アドバイザー	利根川 進	国立研究開発法人理化学研究所 脳科学総合研究センター センター長

【参考】

<開催概要>

ノーベル・メディアABは、ノーベル賞受賞者を含む有識者と一般との対話を目的としたノーベル・ウィーク・ダイアログを平成24年から毎年、ノーベル賞授賞式前日の12月9日にスウェーデンにて実施しています。ノーベル・メディアABと独立行政法人日本学術振興会は、平成27年3月に、スウェーデン国外としては初めて、ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2015 を開催しました。今回はそれに引き続き、第2回目となるノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017 を以下のとおり開催することとしております。

1. 会議の名称

英文名：Nobel Prize Dialogue Tokyo 2017

和文名：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2017

2. 主催

独立行政法人日本学術振興会

ノーベル・メディアAB（ノーベル財団広報部門）

3. テーマ

英文：The Future of Intelligence

和文：知の未来～人類の知が切り拓く人工知能と未来社会～

4. 開催日時

平成29年2月26日（日）9時開始、17時30分終了（予定）

5. 開催場所

東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3丁目5番1号）

6. 後援

文部科学省、内閣府、総務省、外務省、経済産業省、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人科学技術振興機構、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、スウェーデン大使館

7. 言語

英語（日英同時通訳付き）

8. 参加数

1,000名程度

9. 参加費

無 料

10. 申し込み方法

参加の申し込みについては、平成29年1月中旬頃開始予定です。

※詳細が決まり次第、特設ウェブサイト

(<http://www.nobelprizedialogue.org/tokyo2017>) を通して順次ご案内予定です。

本件問い合わせ先：

独立行政法人日本学術振興会国際事業部長 小林 万里子

国際事業部研究協力第一課長 笹川 綾香

T E L : 03-3263-1793

F A X : 03-3234-3700